

候ひし、備中のせのおと云所は、馬の草かひよき所にて候、御邊申て給はらせ給へ、おん内者せんと云ければ、くらみつ三郎木曾殿に此由を申す、略下

〔神護寺文書〕未申承候之處、如此事令申候之條、憚思給候、極恐候也、略中 備中國足守郷を御知行之由承之候、其内に相傳の所領田畠を別結解に可申請候也、略中

十月十八日

刑部丞平三 花押

進上高尾聖人御房 政所

〔南禪寺文書〕備中國三成郷 略中

右所々任代々勅附、知行不可有相違者、院宣如此、仍執達如件、

建武三年十一月廿七日

參議 花押

南禪寺長老清拙上人禪室

〔東福寺文書〕備中國上原郷領家職事、御寄進之院宣分明之上者、全知行可被致御祈禱之忠候、恐々敬白、

正月 ○ 曆應二年 十六日

知任

東福寺長老上人御房

〔攝津親秀讓狀〕讓與

一總領能直分 略中 備中國船尾郷 略中

曆應四年八月七日

掃部頭親秀判

〔康正二年造内裏段錢并國役引付〕合 略中

十二貫二百九十文 略中 等持寺領備中國錢 日 羽 郷 段 參貫文 略中 大澤長門入道殿 備 中 國 水

〔戸川記〕上 一備中國撫川郷。定場城秀安一手を以攻之、小城ながら地嶮に泥有、道狭くて駈引自在